

【別表】 No.3 定期点検内容
各機器の点検内容は次のとおり。

点検項目	点検内容
1 1号、2号発電機 (1) 絶縁抵抗測定 (2) 発電機外観点検	発電機の絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 (高圧主回路、励磁回路(1)、励磁回路(2)) ① 塵埃の付着はないか目視で点検する。 ② 塗装の変色、外傷はないか目視で点検する。 ③ 固定子のコイル変形、変色、汚れはないか目視で点検する。 ④ 固定子の導体接続部の加熱跡、損傷はないか目視で点検する。 ⑤ 回転子のコイル変形、変色、汚れはないか目視で点検する。 ⑥ 回転子の導体接続部の加熱跡、損傷はないか目視で点検する。 ⑦ ブラシレス励磁機のコイル変形、変色、汚れはないか目視で点検する。 ⑧ ブラシレス励磁機の導体接続部の加熱跡、損傷はないか目視で点検する。 ⑨ ブラシレス励磁機の回転整流器取付部に異常はないか目視で点検する。 ⑩ ベアリング直結側のグリース漏れはないか目視で点検する。 ⑪ ベアリング反直結側のグリース漏れはないか目視で点検する。 ⑫ 温度計発電機固定子巻線温度の指示に異常はないか目視で点検する。 ⑬ 温度計軸受温度直結側の指示に異常はないか目視で点検する。 ⑭ 温度計軸受温度反直結側の指示に異常はないか目視で点検する。
(3) 発電機簡易点検	① 発電機本体の外観を目視で点検する。 ② 回転子コイル、固定子コイル、励磁機コイル、サーチコイルの絶縁抵抗を測定し、良否を確認する。 ③ 回転子コイル、励磁機コイルの巻線抵抗及びサーチコイル抵抗を測定し、良否を確認する。 ④ 直結側、反直結側軸受部のグリース汚損状況を確認する。 ⑤ 励磁機磁気空隙測定及び発電機各部締付ボルトの緩みを確認する。 ⑥ 発電機の無負荷運転で、振動測定、温度上昇、聴音などを確認する。
2 1号、2号発電機盤 (1) 発電機制御盤点検 (2) 発電機遮断器点検	① 外観全般の汚損、破損、発錆、加熱跡はないか目視で点検する。 ② 異物混入はないか目視で点検する。 ③ 主回路、制御回路の締付けに緩みはないか目視で点検する。 ④ 絶縁物の結露、放電跡、発錆、破損はないか目視で点検する。 ⑤ AVR部品の加熱跡、発錆、破損はないか目視で点検する。 ⑥ シーケンサにERR等の異常はないか目視で点検する。 ⑦ リレー、タイマーの金具、取付状態に異常はないか目視で点検する。 ① 操作部は、次による。 ア ばねの発錆、変形、損傷はないか目視で点検する。 イ 各締付部のねじ緩み又は部品脱落・破損はないか目視で点検する。 ウ 異物混入・粉塵はないか目視で点検する。 エ 各部品の発錆、汚損の有無を目視で点検する。 オ 操作コイル部のE形止め輪部の変形・脱落はないか目視で点検する。 カ トリップ機構、インターロックに異常はないか目視で点検する。 キ 回数計及び開閉表示器の表示に異常はないか目視で点検する。 ② 主回路部は、次による。

(3) 保護継電器及び限時継電器設定値確認

- ア 絶縁フレーム、絶縁カバーの汚損、割れ、破損はないか目視で点検する。
- イ 絶縁フレーム、絶縁カバーへの水分付着はないか目視で点検する。
- ウ 主回路端子及び接触子の締付状態及び変色はないか目視で点検する。
- ③ 制御部は、次による。
 - ア 制御配線にゆるみ、断線はないか目視で点検する。
 - イ コネクタにゆるみ、変形はないか目視で点検する。
- ④ 開閉部は、次による。
 - ア 手動開閉に異常はないか目視で点検する。
 - イ 電磁開閉に異常はないか目視で点検する。
 - ウ 挿入、引出し機構に異常はないか目視で点検する。
- ① 保護継電器の設定値確認は、次による。
 - ア 過電流継電器の設定値を確認する。
 - イ 過電圧継電器の設定値を確認する。
 - ウ 不足電圧継電器の設定値を確認する。
 - エ 逆電力継電器の設定値を確認する。
- ② 限時継電器の設定値確認は、次による。
 - ア 過励磁確認タイマーの設定値を確認する。
 - イ 停電確認タイマーの設定値を確認する。
 - ウ 停電確認ワンショットタイマーの設定値を確認する。
 - エ 復電確認タイマーの設定値を確認する。
 - オ 復電確認ワンショットタイマーの設定値を確認する。
 - カ 遮断器開放確認タイマーの設定値を確認する。
 - キ 無負荷運転タイマーの設定値を確認する。
 - ク ベル確認タイマーの設定値を確認する。
 - ケ ブザー確認タイマーの設定値を確認する。
 - コ 保護回路形成確認タイマーの設定値を確認する。
 - サ 電圧確立検出タイマーの設定値を確認する。
 - シ 直結側軸受温度確認タイマーの設定値を確認する。
 - ス 反直結側軸受温度確認タイマーの設定値を確認する。
 - セ 固定子温度確認タイマーの設定値を確認する。
 - ソ MELSEC CPU 動作確認タイマーの設定値を確認する。

(4) 保護装置連動試験

- ① 制御電源断の連動について異常なく動作することを確認する。
- ② 非常停止の連動について異常なく動作することを確認する。
- ③ 過電圧の連動について異常なく動作することを確認する。
- ④ 不足電圧の連動について異常なく動作することを確認する。
- ⑤ 逆電力の連動について異常なく動作することを確認する。
- ⑥ 発電機固定子温度高の連動について異常なく動作することを確認する。
- ⑦ 発電機軸受温度直結側の連動について異常なく動作することを確認する。
- ⑧ 発電機軸受温度反直結側の連動について異常なく動作することを確認する。
- ⑨ G T制御盤重故障の連動について異常なく動作することを確認する。
- ⑩ シーケンサ異常の連動について異常なく動作することを確認する。
- ⑪ 共通補機重故障一括の連動について異常なく動作することを確認する。
- ⑫ 過励磁の連動について異常なく動作することを確認する。
- ⑬ 過電流の連動について異常なく動作することを確認する。
- ⑭ G T制御盤軽故障の連動について異常なく動作することを確認する。
- ① 手動運転（燃料：灯油又はガス燃料）について記録する。

(5) 運転記録

	② 自動運転（燃料：ガス燃料）について記録する。 ③ 発電機の運転点検は、次による。 ア 発電機のフレームに異常な加熱はないか触手で点検する。 イ 発電機の異常な振動、異常音はないか触手、聴音で点検する。 ウ 発電機の吸排気に異常はないか目視で点検する。 エ 軸受部の異常な加熱はないか触手で点検する。 オ 軸受部の異常な振動、異常音はないか触手、聴音で点検する。 カ 軸受部のグリース漏れはないか目視で点検する。 キ AVRの電圧の調整はよいか目視で点検する。 ク AVRの定格電圧±5%以上の調整は可能か目視で点検する。 ケ 電圧に異常はないか目視で点検する。 コ 電圧バランスに異常はないか目視で点検する。 サ 電流に異常はないか目視で点検する。 シ 電流バランスに異常はないか目視で点検する。 ④ 無負荷運転記録は、次による。 ア 発電機VT2次側端子電圧を測定し、電圧バランスしていること、相回転方向が正しいことを確認する。 イ 電圧調整範囲の確認で、定格発電機電圧の±5%以上調整できることを確認する。 ⑤ 負荷運転記録は、次による。 ア 負荷、電流について定格値以内であることを確認する。 イ 電圧、回転数、周波数について定格値の±5%以内、バラツキがないことを確認する。 ウ 力率について実負荷時0.8～1.0以内であることを確認する。 エ 油温、排気温度、油圧について各機関メーカーの基準による値であることを確認する。
3 1号、2号補機盤 (1) 絶縁抵抗測定 (2) 制御盤点検 (3) 限時継電器設定値確認 (4) 保護装置連動試験	次の機器の絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 (GTオイルクーラーファン1、GTオイルクーラーファン2、エンクロージャ換気ファン1、エンクロージャ換気ファン2、純水加圧ポンプ、給気ファン1(CGS機械室)、給気ファン2(CGS機械室)、給気ファン1(排熱ボイラ室)、給気ファン2(排熱ボイラ室)、給気ファン(ガス圧縮機室)、液体燃料クーラファン、始動用空気圧縮機) ① 外観全般の汚損、破損、発錆、加熱跡はないか目視で点検する。 ② 異物混入はないか目視で点検する。 ③ 端子、コネクタ、取付ネジの締付けに緩みはないか目視で点検する。 ④ リレー、タイマーの金具、取付状態に異常はないか目視で点検する。 ① 始動用空気圧縮機潤滑油圧力低下確認タイマーの設定値を確認する。 ② ブザー自動停止タイマーの設定値を確認する。 ③ 給気ファン1(CGS機械室)運転確認タイマーの設定値を確認する。 ④ 給気ファン2(CGS機械室)運転確認タイマーの設定値を確認する。 ⑤ 給気ファン1(排熱ボイラ室)運転確認タイマーの設定値を確認する。 ⑥ 給気ファン2(排熱ボイラ室)運転確認タイマーの設定値を確認する。 ⑦ 始動用空気圧縮機アンロード弁運転確認タイマーの設定値を確認する。 ① 始動用空気圧力低の連動について異常なく動作することを確認する。 ② 始動用空気圧縮機潤滑油圧力低の連動について異常なく動作することを確認する。

(5) 補機運転確認	確認する。 ③ 補機故障一括の連動について異常なく動作することを確認する。 ① GTオイルクーラーファン1の電流値について測定確認する。 ② GTオイルクーラーファン2の電流値について測定確認する。 ③ エンクロージャ換気ファン1の電流値について測定確認する。 ④ エンクロージャ換気ファン2の電流値について測定確認する。 ⑤ 純水加圧ポンプの電流値について測定確認する。 ⑥ 給気ファン1 (CGS機械室) の電流値について測定確認する。 ⑦ 給気ファン2 (CGS機械室) の電流値について測定確認する。 ⑧ 給気ファン1 (排熱ボイラ室) の電流値について測定確認する。 ⑨ 給気ファン2 (排熱ボイラ室) の電流値について測定確認する。 ⑩ 給気ファン(ガス圧縮機室) の電流値について測定確認する。 ⑪ 液体燃料クーラファンの電流値について測定確認する。 ⑫ 始動用空気圧縮機の電流値について測定確認する。
4 自動同期盤 (1) 制御盤点検 (2) 限時継電器設定値確認	① 外観全般の汚損、破損、発錆、加熱跡はないか目視で点検する。 ② 異物混入はないか目視で点検する。 ③ 端子、コネクタ、取付ネジの締付けに緩みはないか目視で点検する。 ④ シーケンサにERR等の異常はないか目視で点検する。 ⑤ リレー、タイマーの金具、取付状態に異常はないか目視で点検する。 ① 同期投入確認タイマーの設定値を確認する。 ② ガス運転切替用タイマーの設定値を確認する。 ③ ベル確認タイマーの設定値を確認する。 ④ ブザー確認タイマーの設定値を確認する。 ⑤ マスターMELSEC CPU 動作確認タイマーの設定値を確認する。
5 母線連絡盤 (1) 制御盤点検 (2) 保護継電器及び限時継電器設定値確認	① 外観全般の汚損、破損、発錆、加熱跡はないか目視で点検する。 ② 異物混入はないか目視で点検する。 ③ 端子、コネクタ、取付ネジの締付けに緩みはないか目視で点検する。 ④ リレー、タイマーの金具、取付状態に異常はないか目視で点検する。 ① 保護継電器の設定値確認は、次による。 ア 過電流継電器1の設定値を確認する。 イ 地絡過電圧継電器1の設定値を確認する。 ウ 過電流継電器2の設定値を確認する。 エ 地絡過電圧継電器2の設定値を確認する。 ② 限時継電器の設定値確認は、次による。 ア ベル確認タイマーの設定値を確認する。 イ ブザー確認タイマーの設定値を確認する。
6 補機電源切替盤 (1) 制御盤点検 (2) 限時継電器設定値確認 (3) 補機電源切替器M	① 外観全般の汚損、破損、発錆、加熱跡はないか目視で点検する。 ② 異物混入はないか目視で点検する。 ③ 端子、コネクタ、取付ネジの締付けに緩みはないか目視で点検する。 ④ リレー、タイマーの金具、取付状態に異常はないか目視で点検する。 ① 1号側切替指令自己保持タイマーの設定値を確認する。 ② 2号側切替指令自己保持タイマーの設定値を確認する。 ① 操作系は、次による。

CDT点検	ア ばねの発錆、変形、損傷はないか目視で点検する。 イ 各締付部のねじ緩み又は部品脱落・破損はないか目視で点検する。 ウ 異物混入・粉塵はないか目視で点検する。 エ 各部品の発錆、汚損の有無を目視で点検する。 オ トリップ機構、インターロックに異常はないか目視で点検する。 カ 開閉表示器の表示に異常はないか目視で点検する。 ② 主回路系は、次による。 ア 絶縁フレーム、絶縁カバーの汚損、割れ、破損はないか目視で点検する。 イ 絶縁フレーム、絶縁カバーへの水分付着はないか目視で点検する。 ウ 主回路端子及び接触子の締付状態及び変色はないか目視で点検する。 ③ 制御系は、次による。 ア 制御配線にゆるみ、断線はないか目視で点検する。 イ コネクタにゆるみ、変形はないか目視で点検する。 ④ 開閉系は、次による。 ア 手動切替に異常はないか目視で点検する。 イ 電磁切替に異常はないか目視で点検する。 ウ 挿入、引出し機構に異常はないか目視で点検する。
7 補機変圧器盤 (1) 制御盤点検 (2) 保護継電器及び限時継電器設定値確認	① 外観全般の汚損、破損、発錆、加熱跡はないか目視で点検する。 ② 異物混入はないか目視で点検する。 ③ 端子、コネクタ、取付ネジの締付けに緩みはないか目視で点検する。 ④ リレー、タイマーの金具、取付状態に異常はないか目視で点検する。 ① 保護継電器の設定値確認は、次による。 ア 過電流継電器(51)の設定値を確認する。 イ 過電流継電器(50)の設定値を確認する。 ウ 漏電リレーの設定値を確認する。 ② 限時継電器の設定値確認は、次による。 ア ベル確認タイマーの設定値を確認する。 イ ブザー確認タイマーの設定値を確認する。 ウ 補機電源確認タイマーの設定値を確認する。
8 共通補機盤 (1) 制御盤点検 (2) 限時継電器設定値確認	① 外観全般の汚損、破損、発錆、加熱跡はないか目視で点検する。 ② 異物混入はないか目視で点検する。 ③ 端子、コネクタ、取付ネジの締付けに緩みはないか目視で点検する。 ④ シーケンサにERR等の異常はないか目視で点検する。 ⑤ リレー、タイマーの金具、取付状態に異常はないか目視で点検する。 ① ベル自動停止タイマーの設定値を確認する。 ② ブザー自動停止タイマーの設定値を確認する。 ③ 共通給気ファン1(CGS機械室)運転確認タイマーの設定値を確認する。 ④ 共通給気ファン2(CGS機械室)運転確認タイマーの設定値を確認する。 ⑤ PLC故障確認タイマーの設定値を確認する。
9 絶縁測定測定 (1) 高圧	① 52GF1～52G1 52GB及びMC DTの1号側 ② 52GF2～52G2 52GB及びMC DTの2号側 ③ MC DT～52GA ④ 52GA～TRA

(2) 低圧	① NFA1～1号補機盤 ② NFA2～1号補機盤 ③ NFA3～1号補機盤 ④ NFA4～2号補機盤 ⑤ NFA5～2号補機盤 ⑥ NFA6～2号補機盤 ⑦ NFA7～共通補機盤 ⑧ NFA8～共通補機盤 ⑨ NFA9～共通補機盤 ⑩ NFBPL1～1号ボイラ制御盤 ⑪ NFBPL2～2号ボイラ制御盤 ⑫ 共通給気ファン1 NFFCC1 (CGS機械室) ⑬ 共通給気ファン2 NFFCC2 (CGS機械室) ⑭ 共通給気ファン NFFGC (ガス圧縮機室) ⑮ 計装用空気圧縮機1 NFAC1 ⑯ 計装用空気圧縮機2 NFAC2 ⑰ 純水電源 NFWPL ⑱ 計装用空気圧縮機1 自動トラップ NFNX1 ⑲ 計装用空気圧縮機2 自動トラップ NFNX2 ⑳ 排気ファン NFEFC (CGS機械室) ㉑ 排気ファン NFEFB (排熱ボイラ室) ㉒ 排気ファン NFEFG (ガス圧縮機室) ㉓ 1号ガスタービン制御盤 NFGTP1 ㉔ 2号ガスタービン制御盤 NFGTP2 ㉕ 計装用エアドライヤ1 NFSP1 ㉖ 計装用エアドライヤ2 NFSP2
10 保護連動試験	① 51GF1 1号フィード過電流 ② 51GF2 2号フィード過電流 ③ 64GF1 1号フィード地絡過電圧 ④ 64GF2 2号フィード地絡過電圧 ⑤ 50GA 過負荷短絡 ⑥ 51GA 補機変圧器盤過電流 ⑦ 51GAA 補機変圧器盤地絡過電流
11 操作試験	次の機器の操作及び表示が正しく行えるか良否を確認する。 (52GF1、52GF2、52GB、52GA、MCDT)
12 保護継電器試験記録	次の継電器を試験し、良否を確認する。 (51G1(R)、51G1(T)、51G2(R)、51G2(T)、51GF1(R)、 51GF1(T)、51GF2(R)、51GF2(T)、51GA(R)、51GA (T)、50GA(R)、50GA(T)、59G1、59G2、64GF1、64 GF2、27G1、27G2、67PG1、67PG2、51GGA)
13 遮断器(真空遮断器6台)	① 外観点検 ア 絶縁部品の損傷の有無を点検する。 イ 可とう導体の損傷・変色の状態を点検する。 ウ 投入・引き外しコイルの変色状態を点検する。 エ オイルダンパーの状態(油漏れ、動作)を点検する。 オ 各部品の損傷の有無を点検する。

	カ アース端子の接触状態を点検する。 キ スナッピング等の破損・脱落の有無を点検する。 ② 締付け確認 ア 主回路部分(真空管取付部含む)の締付けを確認する。 イ 絶縁部品の締付けを確認する。 ウ 投入バネ蓄勢機構の締付けを確認する。 エ 操作機構部の締付けを確認する。 オ 一次端子部の状態と取付部の締付けを確認する。 カ 二次端子の接続と圧着部の締付けを確認する。 キ その他付属品取付部の締付けを確認する。 ③ 機構 ア 異常摩耗、コジレ、異物混入はないかを点検する。 イ リンク機構の摩耗、焼き付きの有無を点検する。 ウ 手動開閉操作による動作は正常かを点検する。 ④ 真空管 (V S T) 真空度 (A) をR相、S相、T相それぞれ測定する。 ⑤ 機能確認 ア 補助SW接触状態と動作を確認する。 イ 制御装置の動作を確認する。 ウ 挿入、引き出し機構の動作を確認する。 エ 各付属装置、インターロックの動作を確認する。 ⑥ 絶縁抵抗測定 ア 主回路については、各相の上部、下部、各相極間、各相間の上部、下部を測定する。 イ 制御回路については一括測定とする。
14 1号、2号ガスタービン (1) エンジン付属センサ点検	① 制御機器系統 ア 回転ピックアップ(エンジン付)の内部抵抗を測定する。 イ 排気温度センサ(CNT)の絶縁抵抗を測定する。 ウ 排気温度センサ(IND)の絶縁抵抗を測定する。 エ 給気温度センサの内部抵抗を測定する。 ② 点火系統 ア エキサイタの火花確認(スパークテスト)を実施する。 イ 高圧ケーブルの火花確認(スパークテスト)を実施する。 ウ 点火栓の火花確認(スパークテスト)を実施する。 エ アース線の取り付け部分の変形、焼損の有無を点検する。 ③ ガス燃料系統 ア メインガスバルブ用ソレノイドバルブの内部抵抗を測定する。 イ スターティングガスバルブの内部抵抗を測定する。 ウ P用ソレノイドバルブの内部抵抗を測定する。 エ M1用ソレノイドバルブの内部抵抗を測定する。 オ M2用ソレノイドバルブの内部抵抗を測定する。 カ S1用制御バルブの内部抵抗を測定する。 キ S2用制御バルブの内部抵抗を測定する。 ク アモットバルブ入口ストレーナの異物確認、清掃を実施する。

- ケ アモットバルブの開放、点検、整備を実施する。
- コ 燃料制御弁(電子ガバナ)の動作を確認する。
- ④ 液体燃料系統
 - ア 昇圧弁を分解整備する。
 - イ メインバルブの内部抵抗を測定する。
 - ウ プライマリバルブの内部抵抗を測定する。
 - エ バイパスバルブの内部抵抗を測定する。
 - オ 電子燃料制御弁の動作を確認する。
 - カ 燃料フィルタ(ポンプサクション)のストレーナを点検清掃する。
 - キ メイン燃料フィルタ(主ポンプ出口)のエレメントを清掃する。
 - ク 高圧燃料ストレーナ(始動用ポンプ吐出)のエレメントを清掃する。
- ⑤ 水噴射系統
 - ア $\angle$ Pレギュレータの開放、点検、整備を実施する。
 - イ 流量調整弁の内部抵抗を測定する。
 - ウ 純水遮断弁の内部抵抗を測定する。
 - エ ガスパージ弁の内部抵抗を測定する。
 - オ 水パージ弁の内部抵抗を測定する。
 - カ 純水フィルタのエレメントを清掃する。
- ⑥ 潤滑油系統
 - ア 潤滑油のサンプルを採取し、性状分析する。
 - イ プレボストポンプの動作を確認する。
 - ウ 主潤滑油ポンプ吸入ストレーナの異物確認、清掃を実施する。
 - エ 主潤滑油ポンプ吐出フィルタの外観を目視で点検する。
 - オ プレボスト吸入ストレーナの異物確認、清掃を実施する。
 - カ プレボスト吐出フィルタの外観を目視で点検する。
 - キ 主潤滑油ポンプの外観を目視で点検する。
 - ク 温調弁の外観を目視で点検する。
 - ケ オイルクーラの清掃及び外観を目視で点検する。
 - コ オイルマニホールドストレーナの異物確認、清掃を実施する。
 - サ オイルミストセパレータNo. 1の異物確認、清掃を実施する。
 - シ オイルミストセパレータNo. 2の異物確認、清掃を実施する。
 - ス ミストリターンソレノイドバルブの内部抵抗を測定する。
 - セ チップディテクターNo. 1の異物確認、清掃を実施する。
 - ソ チップディテクターNo. 2の異物確認、清掃を実施する。
 - タ 圧力調整弁の圧力を確認する。
- ⑦ 吸気、排気系統
 - ア インレットスクリーンの金網交差部の摩耗、腐食を点検する。
 - イ 異口径排気ダクトの割れ、変形の有無を確認する。
 - ウ オイルクーラーファンの清掃及び割れ、変形の有無を確認する。
 - エ パッケージ換気ファン外観点検及び作動点検する。
- ⑧ 直流電源盤
 - ア 充電器の外観を目視点検する。
 - イ 制御電源、プレボスト用蓄電池の外観を目視点検する。
- ⑨ 制御機器系統
 - ア 回転ピックアップ(減速機付き)の内部抵抗を測定する。
 - イ 各種MSコネクタの増し締め点検する。

(2) パッケージ外付属
補機

- ウ 減速機振動ピックアップの外観を目視点検する。
- エ 潤滑油温度センサ(マニホールド) の抵抗を測定する。
- オ No. 2軸受排油温度センサの抵抗を測定する。
- カ 吸気温度センサの抵抗を測定する。
- ⑩ 各種圧力センサ
 - ア 潤滑油圧力センサの外観を目視点検する。
 - イ 潤滑油圧力SW (L) の外観を目視点検する。
 - ウ 潤滑油圧力SW (LL) の外観を目視点検する。
 - エ PP潤滑油フィルタ差圧SWの外観を目視点検する。
 - オ PP潤滑油圧力スイッチの動作を確認する。
 - カ 燃料ガス圧力SW (L) の動作を確認する。
 - キ 吸気フィルタ差圧伝送器 (1段) の外観を目視点検する。
 - ク 吸気フィルタ差圧伝送器 (2段) の外観を目視点検する。
 - ケ 空気圧縮機吐出圧力センサの外観を目視点検する。
- ⑪ 減速機系統
 - ア 減速機本体の外観を目視点検する。
 - イ カップリングの緩み及び外観を目視点検する。
- ① ガス燃料系統
 - ア 安全遮断弁入口ガスフィルタの異物確認、清掃を実施する。
 - イ 緊急遮断弁 (ESV) の制御空気圧力を確認する。
 - ウ 緊急開放弁 (EOV) の制御空気圧力を確認する。
 - エ 安全遮断弁1 (SSV1) の制御空気圧力を確認する。
 - オ 安全遮断弁2 (SSV2) の制御空気圧力を確認する。
- ② 吸排気系統
 - ア パッケージ吸気金網の金網交差部の摩耗、腐食を点検する。
 - イ 排気ダンパシリンダの動作を確認する。
- ③ 空気系統
 - ア 始動弁ユニットの分解整備を行い、動作を確認する。
 - イ 主減圧弁の動作を確認する。
 - ウ Y型ストレーナの異物確認、清掃を実施する。
 - エ 制御空気圧力のゲージ圧力を確認する。
 - オ 二次空気圧力のゲージ圧力を確認する。
 - カ 二次空気立上げ時間で上昇までの時間を測定する。
 - キ 三方電磁弁の漏れの有無を確認する。
 - ク 始動用空気圧縮機の外観点検及び動作を確認する。
 - ケ 空気槽圧力スイッチの動作を確認する。
 - コ 空気槽出口バルブの外観を点検する。
 - サ パイロット減圧弁の漏れの有無を確認する。
- ④ 純水系統
 - 純水加圧ポンプの外観点検及び動作を確認する。
- ⑤ 設置状況、主要ボルト
 - ア パッケージ据付ボルトの緩みはないか確認する。
 - イ 減速機据付ボルトの緩みはないか確認する。
- ⑥ 運転確認
 - 始動停止試験として、タイムスケジュールを測定する。
- ⑦ 調速機試験

	ア 調速機動作試験として、手動変速操作時間を測定する。 イ 負荷試験(ヒートラン)連続運用耐性の確認とデータを測定する。 ⑧ ガスタービン振動計 ア 最高値として、始動中最高振動値を測定する。 イ アラーム値として、アラーム発生の有無及び基準設定値を確認する。 ウ トリップ値として、トリップ発生の有無及び基準設定値を確認する。 エ ギャップ電圧を確認する。 ⑨ 減速機振動計 ア 最高値として、始動中最高振動値を測定する。 イ アラーム値として、アラーム発生の有無及び基準設定値を確認する。 ウ トリップ値として、トリップ発生の有無及び基準設定値を確認する。
15 1号、2号ガス圧縮機 (1) 圧縮機本体メカニカルシール (2) 油回収器 (3) 油ろ過器 (4) 油分離器 (5) 油冷却器 (6) 安全弁 (7) 自動バイパス調節弁 (8) 計装品計器類 (9) 軸継手 (10) 気密試験	0.3cc/min以上の排油量が確認された場合、メカニカルシールを交換する。 ① 潤滑油の分析を行い、異常のないことを確認する。 ② 油戻り逆止弁が正常に動作することを確認する。 ③ サイドグラスナットの緩みがないことを確認する。 ① 容器内に付着物や腐食のないことを確認する。 ② エレメントを交換する。 ① 容器内に付着物や腐食のないことを確認する。 ② エレメントの全長油分付着が1/3を超えていた場合は交換する。 ③ 油戻り逆止弁が正常に動作することを確認する。 ④ サイドグラスナットの緩みがないことを確認する。 ラジエタフィンの変形、付着物や腐食のないことを確認する。 ① 噴気機能に影響する割れがないことを確認する。 ② 噴気作動試験に適合しているかを確認する。 ① 吐出バイパス弁の弁開度に問題がないかを確認する。 ② 吐出バイパス弁のレバー及び伝達ピンに摩耗など異常がないことを確認する。 ③ 吐出バイパス弁のグランド部締付ナットに緩みがないかを確認する。 ① 減圧弁の設定圧が0.4MPaになるように調整する。 ② 始動給油弁の開閉作動が正常であることを確認する。 ③ 計装用エアに漏れがないことを確認する。 ④ 温度計(TG・TE) ア 吐出温度に誤差がないことを確認する。 イ 給油温度に誤差がないことを確認する。 ウ 熱電対(TE)温度に誤差がないことを確認する。 ⑤ 圧力伝送器(PT) ア 吸込圧力に誤差がないことを確認する。 イ 吐出圧力に誤差がないことを確認する。 ウ 給油圧力に誤差がないことを確認する。 ① ディスクエレメントに変形、疵がないことを確認する。 ② リーマボルトに変形、疵がないことを確認する。 ③ ハブ・スペーサに変形、疵がないことを確認する。 ④ 芯振・面振・面間それぞれが基準値内になるよう調整する。 ① ユニット内に漏れはないか、常用圧力の1.1倍で30分以上、発泡液及び現像液にて確認する。(圧力保持すること)

(11) 電動機 (12) 保護回路試験 (13) 試運転	② ガス系統配管 ア 発泡液にて漏れがないことを確認する。 イ 外観検査で変形、疵がないことを確認する。 ③ 油系統配管 ア 発泡液にて漏れがないことを確認する。 イ 外観検査で変形、疵がないことを確認する。 ④ メカニカルシール、サイトグラス、安全弁、バイパス調整弁に漏れがないことを発泡液にて確認する。 ① 圧縮機用電動機の絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 ② 空冷ファン用電動機の絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 ① 圧力において、INTER LOCK が作動し、軽故障・重故障及び遅延タイマーが正常作動することを確認する。 ② 温度において、INTER LOCK が作動し、軽故障・重故障及び遅延タイマーが正常作動することを確認する。 ① 運転前確認 ア 弁の開閉を系統図と照合し、異常のないことを確認する。 イ 運転前データを測定し、異常のないことを確認する。 ② 単体運転 ア 運転動作がフロー通り作動することを確認する。 イ 油面が運転管理値以内(160mm 以上)であることを確認する。 ③ 停止状態でガス漏れがないことをポータブルガス検知器で確認する。 ④ 連結運転 ア 運転データを測定し、異常のないことを確認する。 イ 振動データを測定し、異常のないことを確認する。 ウ 騒音データを測定し、異常のないことを確認する。 エ 微開バルブ開度調整が適正開度になるよう調整する。 ⑤ T/P、圧力、温度などの運転データを記録する。
16 純水装置	① メンテナンスリストに基づき、指定部品の交換メンテナンスを行う。 ② 処理水をサンプリングし、水分析を行い異常のないことを確認する。
17 ガス漏れ警報器	① 指定部品の交換を行う。 ② 校正ガスを用いて、感度校正・外部出力確認を実施する。